

問 題

(1) 下記の症状について、簡単に説明してください。

- 1) 情動と気分の違い
- 2) 幻覚と錯覚の違い
- 3) 妄想
- 4) 昏迷状態
- 5) 記憶

(各6点 合計30点)

(2) 統合失調症について正しいものに○、間違っていれば×を記入してください。

- 1) 統合失調症の多くは壮年期から老年期にかけて発症する。
- 2) 精神科外来で統合失調症の占める割合は60%である。
- 3) 1993年に日本精神神経学会が病名変更の要望を出したことをきっかけとし、精神分裂病から統合失調症へと病名変更がなされた。
- 4) 統合失調症の三つの病型は破瓜型、緊張型、妄想型である。
- 5) 比較的発症が遅く、幻聴と妄想を中心症状とし、人格崩壊や社会への不適応の程度も比較的軽い病型を破瓜型という。
- 6) 幻覚と妄想は統合失調症にのみ見られる症状である。
- 7) 思考や行動が他から影響されると感じる作為体験は統合失調症に特有の症状である。
- 8) 緊張病などでみられる、同じ行動、姿勢、言葉を繰り返す症状をカタレプシーという。
- 9) 治療に抗精神病薬が登場したのは1950年代からでありそれ以前にはショック療法が行われていた。
- 10) ショック療法は現在では禁止されている。

(各2点 合計20点)

(3) 気分障害について次の文章の()を埋めてください。

- 躁うつ病は統合失調症とならんで(①)精神病の一つとして重要である。
- 躁うつ病の病前性格としては(②)気質、(③)気質、(④)型などが挙げられる。
- 躁状態では考えが湧き出し、話題が次から次へと逸れていく。これを(⑤)という。
- うつ状態でよくみられる妄想としては、「悪い病気になったに違いない」などの(⑥)妄想、「財産が無くなり一家破滅する」などの(⑦)妄想、「過去に大きな罪を犯してしまった」など自分を責める(⑧)妄想などが知られている。
- うつ病の中で身体的訴えが前面に出て、精神症状が隠されてしまっているものを(⑨)うつ病という。

- 高齢者のうつ病が原因で記憶力や判断力、集中力の低下など一見認知症のように見える状態を（⑩）という。

(各4点 合計40点)

(4) 下記の文章で正しいものに○、間違っていれば×を記入してください。

- 1) 精神科治療は、薬物療法だけでなく精神療法や環境療法も重要である。
- 2) 抗精神病薬の副作用には、錐体外路症状、起立性低血圧・口渇・便秘などの自律神経症状、肥満・糖代謝異常など内分泌症状がある。
- 3) SSRI（新規抗うつ薬）の副作用には、嘔気・嘔吐などの消化器症状が含まれる。
- 4) 睡眠薬・抗不安薬の副作用には、ふらつき、転倒・転落、せん妄がある。
- 5) 認知症治療薬は、認知症自体を治す効果や発症を予防する効果がある。
- 6) 認知症治療薬であるドネペジルの副作用には、吐き気や下痢、食欲不振などの消化器症状がある。
- 7) 精神科治療薬（向精神薬）は、劇薬に指定された薬剤が多く含まれる。
- 8) 精神療法は、内的な不安や緊張が高まるなどの副作用を生じることがある。
- 9) 環境療法・社会療法のひとつに、森田療法や内観療法などの訓練療法がある。
- 10) 作業療法は、患者側の要因を生活技能の側面を捉え、認知行動療法の理論に基づく技法を用いて、生活技能の改善や生活の質を高めることを目的にした環境・社会治療である。

(各1点 合計10点)